

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スタディ療育N e s t			
○保護者評価実施期間	R7年10月14日 ～ R7年11月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	R7年10月15日 ～ R7年11月7日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年11月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学習障害（LD）に対する学習面での個別サポート	学習習慣をつけるべく、全利用児童に毎日30～40分の個別学習タイムを設けている。 個別の学習プランを立てている。 WISC等を参考にしながら、認知領域の得意・不得意にあわせた学習支援を実施している。	学校で習う教科学習（読み書き・計算）を習得するために、こういった認知トレーニングが有効か研究・模索を続けていく。
2	発達グレーゾーン児の進路相談等に強い機能	明確な発達・知的障害の診断がつかず判断に迷うケース（いわゆるグレーゾーン）において、保護者の不安や疑問に寄り添い「子育て・進学セミナー＆相談会」を実施し、適切なアセスメント・支援へつなげている。	利用開始後も、定期的に利用保護者向けに進路情報が提供できるよう保護者会やセミナーを実施したりペアレントイベントを実施する。
3	行政・学校との連携支援	利用開始前には、在籍する保育園・こども園・小中学校・行政機関に児童の生活面などの様子を確認し、可能であれば見学させてもらうようにしている。 その後も定期的に、上記機関と児童の様子を共有できるよう意識的に連絡をとっている。	このまま小中学校・市役所・家児相・子ども支援室等との連携を継続していく、また新たに連携が必要な他機関も模索していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	作業療法や理学療法などの医学的専門性のある人材の不足	求人方法の枯渇、予算の枯渇 人脈 他業務との兼ね合い	外部の作業療法士や言語聴覚士を招いて職員研修をおこなう。 職員が受けた研修をN e s t のプログラムメソッドにとり入れて実践していく。
2	ペアレントトレーニングや保護者への情報提供ができていない	時間と人手がそこにとれていない。 開所間もないため、利用者集客の方に時間を割いていた。	保護者会を年1～2回実施する そのなかで「家庭での子供への接し方」「有効な声のかけ方」等セミナーを実施する、保護者同士の交流時間も設け、悩みを共有できる場を設ける。 日々の送迎等のなかで、児童の様子報告をこまめにおこなう。
3	地域の子供たち（健常児）との交流をする手立てが見つからない	トラブルが発生することに懸念がある。 健常児が集まる場に当施設の児童が交ざる事に職員の不安がある。	地域のフェスイベント等に参加するところから始める。 学童施設・児童館への交流依頼をしてみる。 兄妹児や友人等と一緒に参加できるイベントを企画する。